安達原氷之姿見　京傳作
豊國画

へ15
3685

山東京傳作
歌川豊國画
安達錦
全六冊

へ13
3685

山東京傳作
歌川豐國画

おそろし義そう師走の月

安達原氷之姿見 前編

全部六冊

東都

偐鶴堂梓行

柏枝大掃

自序

江戸通油町　鶴屋喜右衛門板

西山宗因が宿へ安達が原ありとやらん。其角が句意さへ横ぐるく。かの戯曲の切賣を。賤ちゝしくる筆ざくく。師走の月のかけたより。あわおそろしきの板元のたて催促。手付のぢん金さへ手紙へんぢんと。して長くくと十重廿重わ巻紙の。理づめの文言ばりまくしたて。サア若んじやうふ草稿を渡せ。まくらとせりつけられ。ア。ちくしやう残念や。我秀才わあるまくべ。だぢわ趣向も深むべきわ。子どもたちの絵草紙を作るわどの智恵さへたらぬハ。むねんくと。おぐんごふく。歯がゝをすりてなのいち番紙。ふるつてゑれハ蚊へぶんく。蚤ハちく〳〵。夜ながさくたるの雨ざる妻の夜の。じうをの才ハせんくうく。其角が西瓜をたゝいて。ちく〳〵安達が原。鬼一口の口絵うしてまろ。多うう十二支と絵の白髪の官女。正本のくり本ハすと。西瓜の目きゝ穴くく〳〵と。

文化九年壬申五月草稿成
十年癸酉春新繪草紙

山東京傳

丑
子
○三井の頼豪阿闍梨
厚地穿墉深得所
大倉食粟可充飢
○宇治の橋姫丑の時
かくびくる三井の仁王や
多木立
晋其角

寅
怒震千山外
名居百獸先
和田藤次郎

卯
辰
池の庄司助もり
そごうが池の龍女

午
あるのかの婦おうな
巳
照君太郎義門
裾山や虹吐くあるの夕べ
芭蕉

未
傳兵衛
申
ひつぢのらう
ちり川のまるまへ
与次郎
おまつ人ちよこ
ミせものの
めくちぢのこうへ
酉
由良の
三庄太夫
娘
ちぐり尾
七郎
ミの毛の八郎

[かりくらべ]時は康平五ねんのとし後朱雀の院の朝あるうて東夷ども[illegible]ふぎゃくをくわだてし王命ふそむきしかば八幡太郎よりよりとうばつのために[illegible]ふ[illegible]ぞよりふくしたがふ[illegible]ぞよりてかつ[illegible]あぶのたまま[illegible]頼時その子貞任[illegible]ちかうてうちぬしくれば[illegible]うるいしくあのうえのあせりハまんたろうをるいうちふめされ[illegible]ぞ[illegible]ちのくのくふ[illegible]ぞ[illegible]のあいしとりんくうえ女世ふたぐひなきびじんまつりの[illegible]つまおたまりよりつこさ貞任あうぐいとらくども貞任あるよー宗任ゆくゑれざそのちうざんさうよりかくれあるよー[illegible]ぞひのぐてうちさべーとちよくあれバハまんたろうのあいしとりんくいたのくのけんどをうさまのくさの姫ろうあるふくろうづくのまたじうとて王位をうぞひんくうさてあり[illegible]て八まんたろうをおやまおろかとうりうくあのぐまうしんのくーげのあいしさくるつりくれば公のうちおむやくーくあひなあぐまけちをつけんと[illegible]ちもしうるこくあちどまりとらいつのりさるぐまつこのひろれが[illegible]うえふくーげすさきくるてたちのまりさをさらさるまたこにおむひてをあうそひはられバハまんたろうぐんまりをくーけのるいーをくるさとにたうこぶれのまりとまうつけくーけのるいーをくるさとにたうこぶれのまりとまうつけくーけのるいーをくるさとにたうこぶれのまりとまうつけ

都九条の里の休

京傳作
豊国画
金六さま
出抜仕の
鬼

鬼
實

まのつぶて
弱

前編下冊

波

蜘

豊國画 山東京傳作

山東京傳 手劃

○京傳随筆 常董集

前編四冊 寛政酉の秋出板

山東京傳作
歌川豊國画

安達ヶ原後編

全部六冊

江戸通油町　鶴屋喜右衛門梓行

栢枝大橘

子のつき　どさんぴんのおもしろくちゃるすでおもしろくしゃ
らくまんてゆうふんとごんしゅうとさくりゅうのう
ちりびまるろてオヤ六幸はあり
ごんいろゆらうもちれざれたのくるはあり
のそーあくるのとーてあるさ
とらんひさりひいとうてくさ
みる中ってアゆうさとをうかくくさ
ちろつくくもちょうくくやらくく
ゴぶ内ゆるろうちをみるくく
ゆーいるきのをきるろ
つくくとさーのそのて「コレ
そこよみやこうへあるぶちーや
すのう「そふいわをちんさん
ちれさるーや「コレーぎゃ
コのとらん
こるとふ
きょ
ど
のでる
むさるる
ふ
ふ
ゆ
ゆ
ゆ

とう
とう
重

梶

南
梶
兎

まくのつゞき あべ〜やうこびへ〜こうんぐんでてさし
あれとうろたのこそやアねとくたけがーのけらの
どるあんごんですんさ〜ぼよ「ぢゃあひとらこくふと
まさこをくそろくあるぶ「まんまこ」ぢらくこくふと
うとくしてくてきこうどろさうあろくしてくふ
うこふぶむさるがあつろひのけつうあろくりし
あるつて赤ちゃのいふをうそめみちゃ
らき「コリヤく
ちんふをうそのうちろうへ
ぢらのぢ
ぐ
ぐ
ぐ

まつのうらぶね
ちぶくの
ものをうん
ひらくんの
おうらさ
すきあまを
あそこくも
うらじ
ひ浦の
ぞもう
大ぶ
やろく
つのこと
さるようすんぎ
きひしき
たるきの
ひろを
沢くつく

月
雁

中のつづき

駒
桂
助命の
玉

王
遊
車
京山てんこく

駒
景
京傳
自画

京傳店
江戸京橋南
きれ地紙
たばこのきせる
るいあり手の
ちんぬ
ぬくしきれ流の雅ぶのろく生まれひろるおなるあんへ
ぐろーてい まてよさーよーやは

讀書丸 一色 三文六ト

すーきとんをつよくとりのあがえを
よくくとりつとも腎まるあり
老若男女ろくよ月をつくいぼ
ろくつて かをろうまるろくいあるのつくろ
病を生ーて天ぬを
そころくつくいまい
を羽りそしいふ
落ちくいぬを
ちくつてらろく益ろり
絵ちふくふーー暑寒まは
のちるれば外邪をちひぎ
道年あひく ちよちく
ひろまりいるべろーて
ちくーしもたべくーよを
ぬくーびはのちろねくやは

天ちく上品きまろう丸 一ちう十二文

大人小児万病ゆよ天ぐく上の
ちくーしもをつろひ十家宿のかは味
ちりてふものきあうえーしへべろまり
ぬちふれちくものつちりえるーしのりまーーるのの
あんちろとのちん方 ちあくちひくひろまりひるべくーてせちわくあんへゆは

豐國画 山東京傳作

文化十歳癸酉春新版稗史目錄

安達原氷之姿見 全六冊 山東京傳作 歌川豐國画

海陸西國往來 全三冊 十返舍一九作 歌川義丸画

東与四郎 山東京山作

戻駕籠故郷錦繪 全六冊 浪花次郎作 前歌川國貞画 後歌川國満画

岩大山 全三冊 大女大寄 振鷺亭作 歌川國丸画

篭原流清書草紙 全六冊 十返舍一九作 勝川春亭画

大吉屋茂兵衛 大山四郎三 鐵本浮世繪抄 全三冊 振鷺亭作 歌川美丸画

皿屋鋪浮名染著 全六冊 曲亭馬琴作 鳥居清峯画

昔語本田始 全三冊 古今亭三鳥作 歌川國貞画

式亭三馬作
尾上伊太八 二枚續吾嬬錦繪 全六冊
歌川國貞画

式亭三馬作
日高川清姫物語 全六冊
歌川國直画

山東庵主人著
骨董集 上編大本 四冊
來丁酉秋出板仕候

談洲楼焉馬老人著
花江戸 歌舞妓 年代記 後篇編入 全部十冊
勝川春亭画圖

寛永元甲子年より文化八辛未年まで二百八十八年ぢかひ三世居狂言名人上手家の狂言所作せりふ藝道芸人の物語りなどを記せり

初夢富士見曽我 狂言よみかた 袋入 二冊
談洲楼焉馬老人著
勝川春亭画圖

書林 地本問屋 江戸通油町 偃鶴堂 鶴屋喜右衛門版

嘉永六年孟春發表具
南保氏所持